

科目名	健康生活看護学(老年援助)			ナンバリング	PEN541	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	橋本知子	担当教員					

授業の概要	成人期を経てきた存在としての高齢者について、高齢期の加齢現象から日常生活に影響を与えている変化や症状をアセスメントする技術・方法を身につける。また、高齢者に特有な健康障がいを取り上げ、具体的な治療方法および看護援助技術について学ぶ。さらに、老年期の生理的加齢現象や疾患が高齢者の生命や生活に及ぼす影響を踏まえながら、日常生活を整える看護について学ぶ。						
到達目標	1. 高齢者の加齢による身体的・心理的な変化について、説明できる。 2. 高齢者に起こりやすい健康障がいについて、説明できる。 3. 高齢者の生活支援の捉え方・方法について、説明できる。 4. 加齢現象や疾患が高齢者の生命や生活に及ぼす影響について、アセスメントできる。 5. アセスメントに基づいた看護援助技術を修得できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	既習の生涯発達看護学(老年)、健康生活看護学(老年概論)を踏まえつつ、「老年」のみに視点を置くのではなく、ライフサイクル上の連続性に「老年」が位置づけられることを念頭に置き、他領域との関連を意識しながら学習すること。また、グループワークや演習に積極的に参加し、考察を深めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
		1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 高齢者の加齢による身体的・心理的な変化について、説明できる。 2. 高齢者に起こりやすい健康障がいについて、説明できる。 3. 高齢者の生活支援の捉え方・方法について、説明できる。 4. 加齢現象や疾患が高齢者の生命や生活に及ぼす影響について、アセスメントできる。 5. アセスメントに基づいた看護援助技術を修得できる。	1. 高齢者の加齢による身体的・心理的な変化を踏まえた看護援助技術について説明できる。 2. 高齢者に起こりやすい健康障がいに対する、具体的な治療方法および看護援助技術について説明できる。 3. 高齢者の発達段階を踏まえ、家族を含めた生活支援の捉え方・方法について説明できる。 4. 加齢現象や疾患が高齢者の生命や生活に及ぼす影響について日常生活の視点からアセスメントできる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(期末試験・技術試験)	○	○			○		40%
小テスト	○				○		10%
授業内・授業外レポート	○	○			○		20%
事例検討記録用紙	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	1. 授業時間内で実施する小テストは、授業時間内に解説する。 2. レポート類の提出、返却はmanab@IMU上で実施する。 3. 期末試験の解答用紙は、学生からの要請があったらいつでも開示できる準備をしておく。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	ガイダンス ICF(国際生活機能分類)の概念/ 高齢者疑似体験	授業の概要・到達目標・学修方法について理解する。 ICF(国際生活機能分類)の概念について理解する。/ 高齢者の日常生活を体験し、高齢者の日常生活の援助のあり方について考察する。	講義/ 演習・グループワーク
	第2回	生活行動モデルによる老年看護の理解/ 高齢者疑似体験	生活行動モデルの概念を理解し、問題解決型思考と目標志向型思考の違いを考察する。/ 高齢者の日常生活を体験し、高齢者の日常生活の援助のあり方について考察する。	講義/ 演習・グループワーク
	第3回	ICF(国際生活機能分類)の概念/ 高齢者疑似体験	ICF(国際生活機能分類)の概念について理解する。/ 高齢者の日常生活を体験し、高齢者の日常生活の援助のあり方について考察する。	講義/ 演習・グループワーク
	第4回	生活行動モデルによる老年看護の理解/ 高齢者疑似体験	生活行動モデルの概念を理解し、問題解決型思考と目標志向型思考の違いを考察する。/ 高齢者の日常生活を体験し、高齢者の日常生活の援助のあり方について考察する。	講義/ 演習・グループワーク
	第5回	高齢者の生活を支える看護① 食生活を支える看護	加齢に伴って生じる食生活の変化に対するアセスメントと健康な食生活のための支援方法について、食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養の観点から説明する。	講義
	第6回	高齢者の生活を支える看護② 排泄を支える看護	加齢に伴って生じる排泄の機能に関する障害のアセスメントとセルフケア支援方法について、排泄、尿失禁、便秘・下痢の観点から説明する。	講義
	第7回	高齢者の生活を支える看護③ 清潔・衣生活を支える看護	高齢者の清潔・衣生活に関するアセスメントとセルフケア支援方法について、清潔・衣生活、掻痒、痛み・しびれ、感染症の観点から説明する。	講義
	第8回	高齢者の生活を支える看護④ 活動・休息を支える看護	高齢者の活動と休息に関するアセスメントと支援方法について、活動と休息、睡眠、リラクスケアの観点から説明する。	講義
	第9回	高齢者の生活を支える看護⑤ 歩行・移動を支える看護	ADLに直結する歩行・移動に関するアセスメントとセルフケア支援方法について、歩行・移動、廃用症候群、骨粗鬆症、骨折、褥瘡の観点から説明する。	講義
	第10回	認知症・うつ病・せん妄の看護①	認知症・うつ病・せん妄に関する基本的知識とその支援方法について説明する。	講義
	第11回	認知症・うつ病・せん妄の看護②	認知症をもつ高齢者に対する援助のあり方について議論する。	演習・グループワーク
	第12回	生活・療養の場における看護	高齢者の療養の場(介護老人福祉施設、介護老人保健施設)の特徴と看護の役割について説明する。高齢者の家族に対する看護の役割、多職種連携について説明する。	講義
	第13回	高齢者の栄養	高齢者の栄養に関するアセスメントと支援方法について説明する。	講義
	第14回	高齢者のリスクマネジメント	避難所や救急救命における高齢者の健康問題を説明するとともに、支援体制の実際とその望ましいあり方について議論する。	講義
	第15回	終末期の看護	高齢者の終末期に生じやすい症状とその支援方法、見取りを経験した家族への看護、スタッフへのケアについて説明する。	講義
	試験	中間試験は実施しない。		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	事例検討① 事例検討オリエンテーション	看護過程の展開方法および事例検討の学習の進め方について説明する。	演習・グループワーク
	第17回	事例検討②	事例をもとに、生活行動モデルの観点からアセスメントを行い、個人で看護計画を立案する。	演習・グループワーク
	第18回	事例検討③	事例をもとに、生活行動モデルの観点からアセスメントを行い、個人で看護計画を立案する。	演習・グループワーク
	第19回	事例検討④	個人で立案した看護計画を小グループ内で発表し検討し合う。	演習・グループワーク
	第20回	事例検討⑤	個人で立案した看護計画を小グループ内で発表し検討し合う。	演習・グループワーク
	第21回	事例検討⑥	小グループ内で検討した看護計画を中グループ内で発表し、共有する。	演習・グループワーク
	第22回	事例検討⑦	小グループ内で検討した看護計画を中グループ内で発表し、共有する。	演習・グループワーク
	第23回	事例検討⑧	中グループ内から選出されたグループによる全体発表を行い、事例検討の学びを深める。	演習・グループワーク
	第24回	事例検討⑨	中グループ内から選出されたグループによる全体発表を行い、事例検討の学びを深める。	演習・グループワーク
	第25回	老年援助技術演習①	「事例検討①～⑨」をもとに、立案した看護計画に沿った援助技術を修得する。	演習・グループワーク
	第26回	老年援助技術演習②	「事例検討①～⑨」をもとに、立案した看護計画に沿った援助技術を修得する。	演習・グループワーク
	第27回	老年援助技術演習③	「事例検討①～⑨」をもとに、立案した看護計画に沿った援助技術を修得する。	演習・グループワーク
	第28回	老年援助技術演習④	「事例検討①～⑨」をもとに、立案した看護計画に沿った援助技術を修得する。	演習・グループワーク
	第29回	老年援助技術演習⑤	「事例検討①～⑨」をもとに、立案した看護計画に沿った援助技術を修得する。	演習・グループワーク
	第30回	老年援助技術演習⑥	「事例検討①～⑨」をもとに、立案した看護計画に沿った援助技術を修得する。	演習・グループワーク
	試験	期末試験ならびに技術試験を実施する。		
授業の進め方		講義・グループワーク・演習を実施する。		
授業外学習の指示		授業で使用するスライド資料は、manab@IMUからPDFファイルとしてダウンロードすることができる。 予習と復習を必ず行うこと。日頃から高齢者やその家族に関する情報に目を向けること。 関連する国家試験問題を解くことを勧める。 （授業外学習時間： 毎週 60 分）		

教科書	ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践(メディカ出版)
参考書	ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害(メディカ出版) 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学(医学書院)、系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院) 生活機能からみた 老年看護過程＋病態・生活機能関連図(医学書院)
参考URLなど	
その他	最終成績が60点未満の学生には、学習指導を実施し、指定した期間において再試験または再レポート課題を課す。